

北陸信越地区協議会Leader's Academy リーダーズアカデミー

公益社団法人日本青年会議所
2026年度 監事 菅野 譲



【～経歴～】



菅野 譲

2009年
サラリーマンで入会
(2010年 起業)
2024年 JC卒業予定

- 2009年 だて青年会議所 入会
- 2010年～2015年 ロム専務・副理事長・委員長等
日本青年会議所 ブロック・地区出向等
- 2016年 だて青年会議所 理事長
- 2017年 日本青年会議所 アカデミー委員会委員
福島ブロック協議会 副会長
- 2018年 日本青年会議所 渉外委員会 総括幹事
- 2019年 日本青年会議所 価値デザイン会議 議長
東北地区協議会 出向役員
福島ブロック 出向役員
- 2020年 日本青年会議所 福島ブロック協議会 会長
東北地区協議会 出向役員
福島ブロック 出向役員
- 2021年 日本青年会議所 組織グループ担当常任理事
- 2022年 日本青年会議所 副会頭
- 2023年 日本青年会議所 専務理事
- 2024年 日本青年会議所 顧問
- 2025年 日本青年会議所 監事



3RD PROJECT

福島県
伊達市



「世界最多のこいのぼり」世界記録 認定！

- 7,494 匹 復興への願いを込め 大空を泳ぐ -



何をする団体なのか？

LOMは自由

日本JCがLOMに お願いしたいこと

会員は20歳～40歳
会費を納める
法律を守る

定款を見たことある？

(目的)第3条

本会議所は地域社会の産業、経済及び文化に関する諸問題について調査、研究を行い、
その成果の実践を図ることにより、
地域社会の正しい発展に資するとともに、
日本青年会議所及び国際青年会議所と協調して、
国際的理解を深め、その親善を助長し
世界の繁栄と平和に寄与することを目的とする。

JCの事業のあるべき姿

企業・行政・各種団体と共に
多くの人々の考えと行動を変え
持続的に社会を変える仕組みを作り

JCをやりたい人がたくさん集まる

JCの アイデンティティ



- これは何？
- なぜこれが飛行機だとわかるのでしょうか？

アイデンティティ

- 人のアイデンティティとは何か？
 - あらゆる実在するもの、個人または企業には、名前と呼ばれるアイデンティティが必要
- 人にはなぜアイデンティティが必要か？
 - 他者と区別するため
- 組織のアイデンティティとは何か？
 - 組織がどのようにイメージ、認識されているか
 - 評価や評判となる

LOMのアイデンティティ

- あなたの各地会員会議所(LOM)の

アイデンティティは何ですか？

- あなたの地域の**路上で人**に尋ねたら、その人はあなたのLOMについてどのように

表現しますか？

- LOMのアイデンティティ
- あなたのLOMと、地域の他の組織との
類似性 何か？

非営利

任意（ボランティア）

貢献・奉仕（サービス）

マーケティングの手法で考えるならば、JCI は
全ての類似の組織と同じ **カテゴリー** の
一部として、**認知** されなくてはならない。

このカテゴリーが総じて認知されればされるほど、
同じカテゴリーに分類される全ての組織にとり
より望ましい状況が見込まれる。

違い が組織を **際立たせる** !

自分のLOMと、地域の他の組織との

違いは何か？

持続可能な問題解決のための事業

メンバーが**発展・成長**する

絶えず提供される**リーダーシップの機会**

メンバーが立案し実施を決める事業

私たちのアイデンティティ

LOMは、JCIロゴによって地域に
認知されなければならない...



同時に、LOMが何のためにあり、その目的を
どうやって達成するかという、その地域における
アイデンティティを創り出す必要がある。

目的

飛行機が飛行機と呼ばれるには、
何をする必要があるのでしょうか？



1. 空を飛ぶ
2. 人と貨物を、バスやトラック、列車、船よりも速く運ぶ

わたしたちの組織の目的

- 目的ははっきりと定義されていなければならない：
 - 我々はどこを目指したいのか？
 - どのようにしてそこに到着するよう計画するか？
- 明確な目的は、人々を団結させ、指針を与える。
- 目的は、あらゆるレベルで存在しなければならない。

ビジョン& ミッション 違いは何ですか？

- ビジョンは、自分たちの組織をどのようにしたいかという夢・理想であり、組織として好ましい将来の状態。
- ミッションは、ビジョン達成のために、組織として何をやる必要があるかを説明したもの。

JCIのミッション

組織の運営上の特徴を明確に述べている。
これは実地的な活動であり、適切に遂行されれば、
結果的にビジョンの実現を補助する。

JCIのミッション：

“To provide leadership development opportunities that empower young people to create positive change.”

JCI LOMのミッション

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供すること」

JCIは、どうしたらこのミッションを遂行できるか？

下記の活動を行うことにより:

- 積極的な参加・参画の機会を提供するような活動
- メンバーが力をつけることができるよう、スキルを開発・発達させるような活動

JCIのミッション

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供すること」

どうしたらJCI は
そのミッションを達成できるだろうか？

「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供する」

成 果



なぜそれほど簡単に、これが飛行機だとわかったのだろうか？

- 見たことがあったり、利用した経験があったから
- 飛行機を一度も見たことのない人は、
この写真が飛行機だとわかったでしょうか？
- 多分、わからない！

経 験

地域社会には、あなたのLOMを**認識し、** **親**
しんでもらわなければならない。

地域社会がそのLOMを認識するという経験
は、

結果としてLOMの**目的**に沿っており、
地域社会の期待に叶うものでなければならな
い。



飛行機は、本来何をするものか？

- ・空を飛び、人や貨物を運ぶ

飛行機は他に何をするか？

- ・食事、飲み物、映画、娯楽

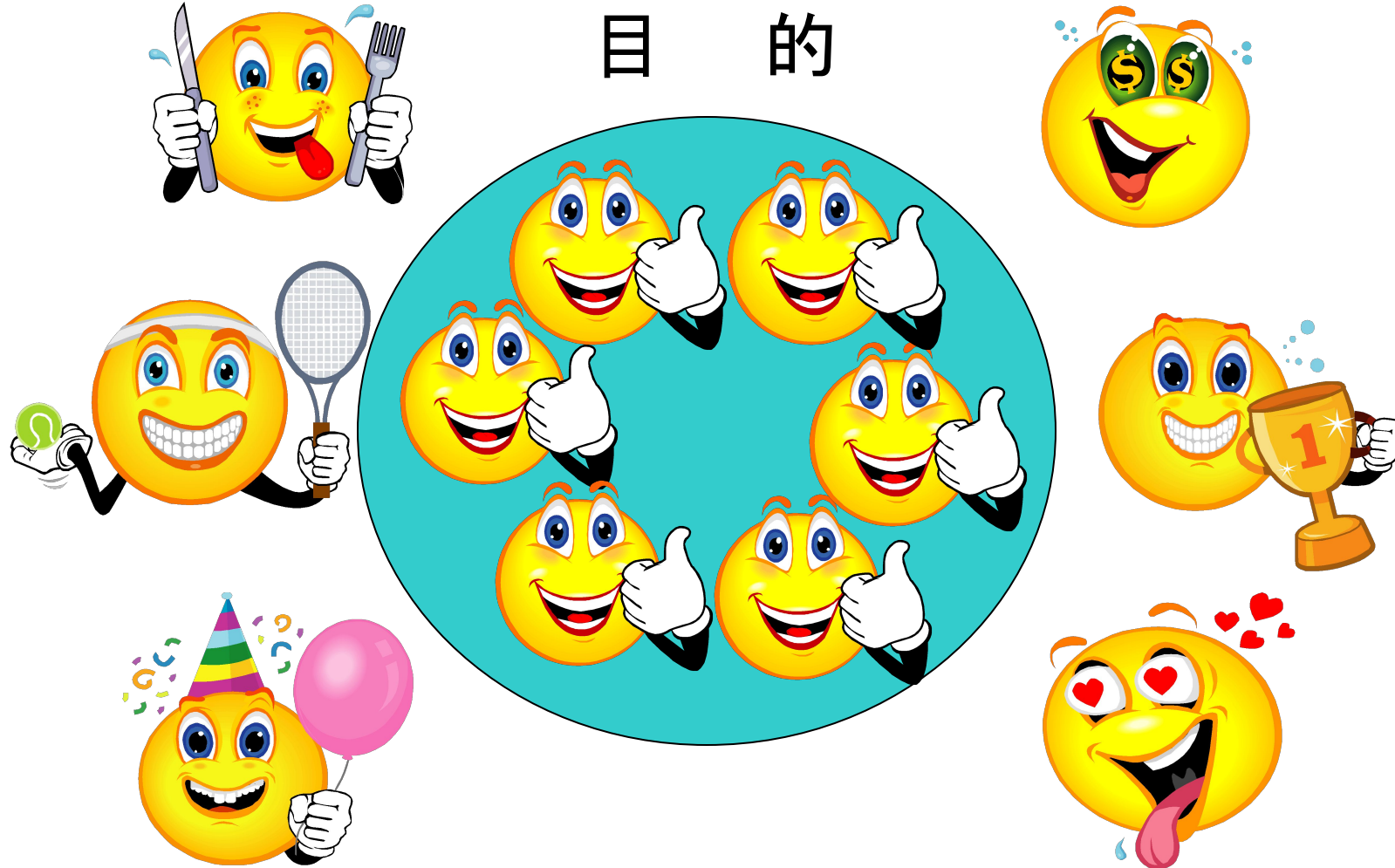
それが目的でないとすれば、なぜか？



飛行機がもう飛ばないとしても、
それでも飛行機だろうか？

あるいは、今となってはレストラン（食事と飲み物を提供）
もしくは映画館（映画を見せる）になるだろうか？

目的

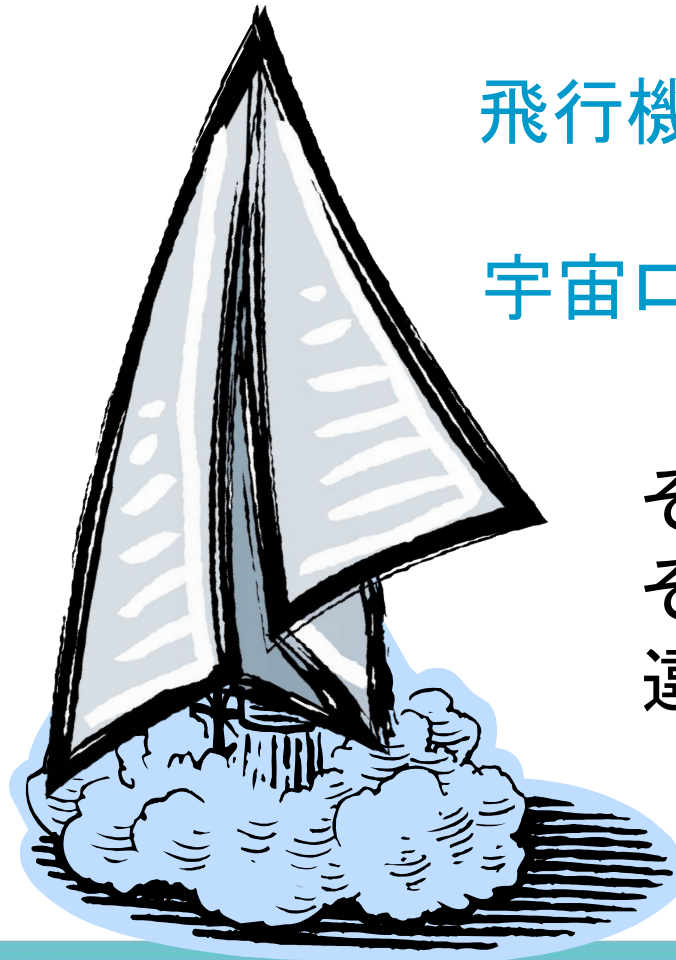


発展・成長の機会



人々の認識

これは何？



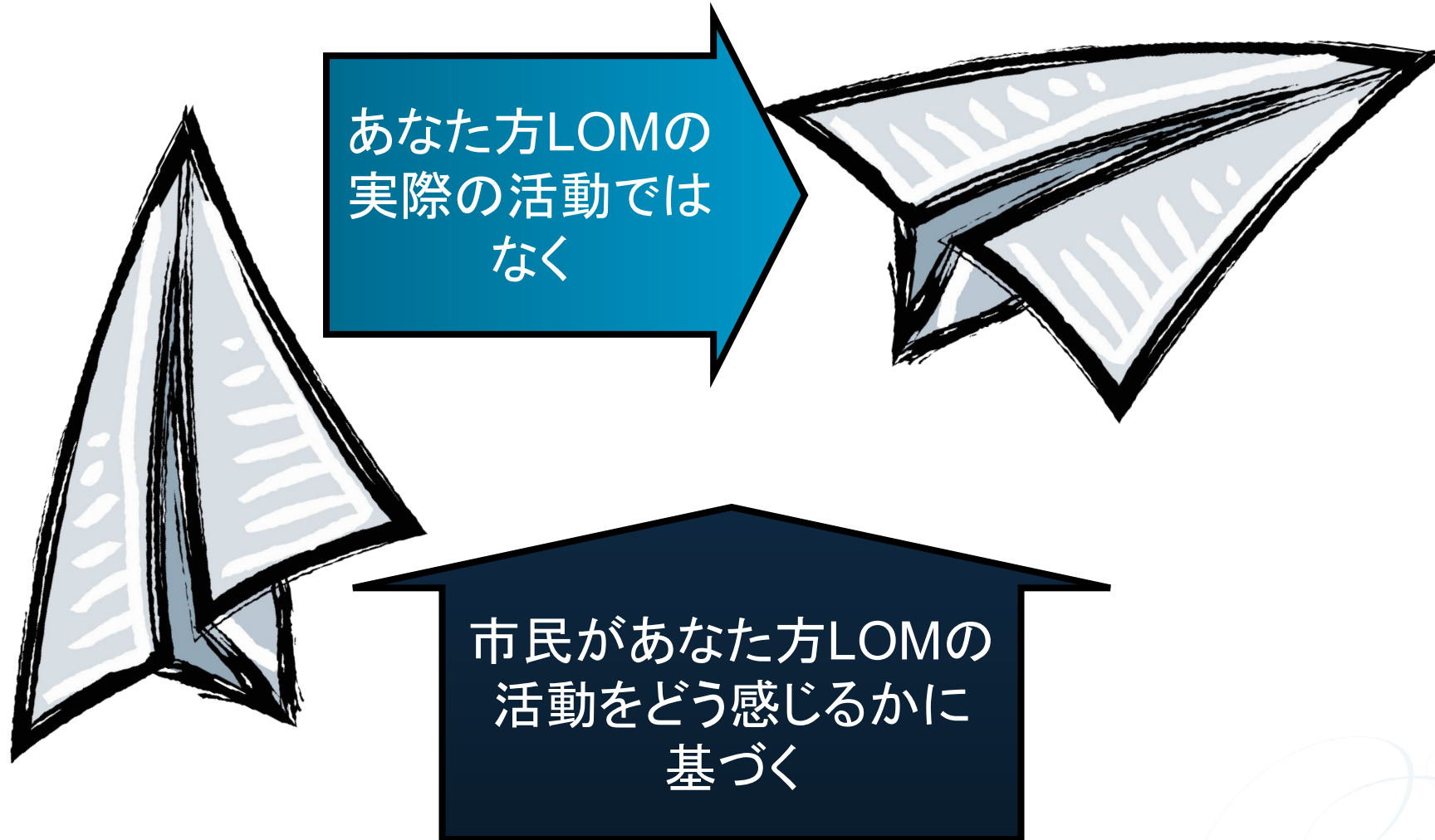
飛行機

宇宙ロケット



それをどのように見るか、
それが何をするかによって、
違うものになりうる

市民があなたのLOMを認知する

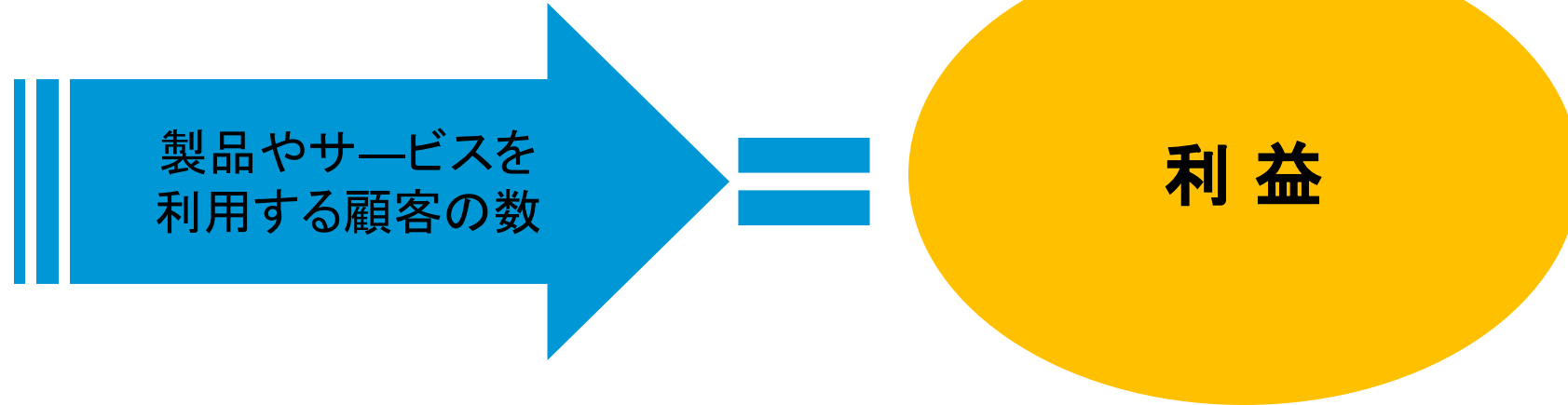


正しいことを実現するにあたって

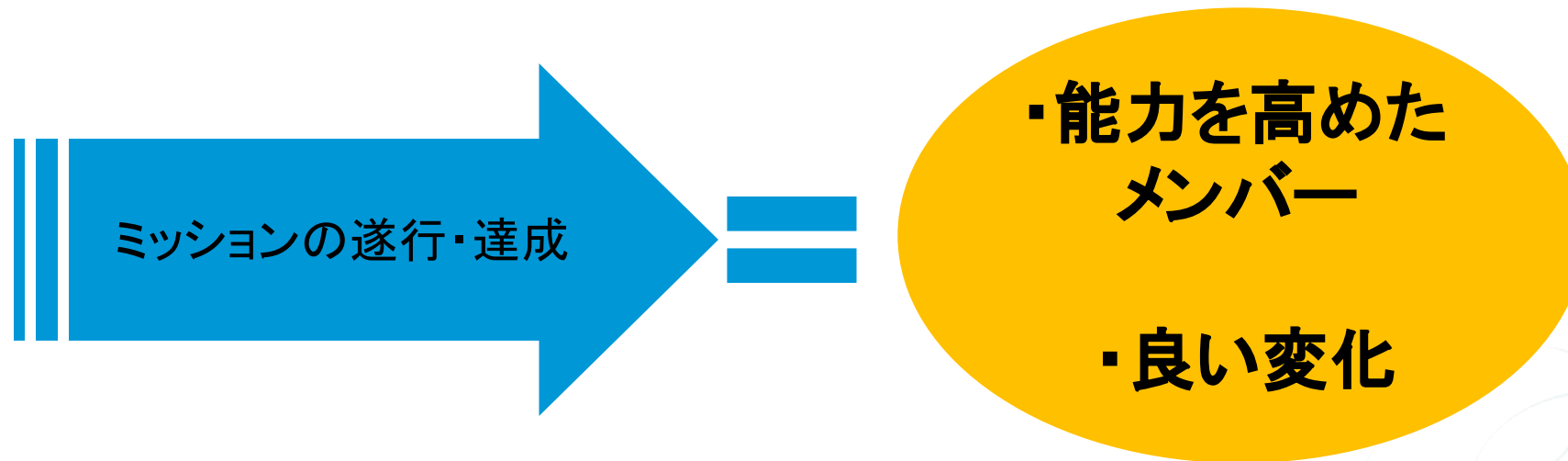
LOMのあらゆる活動は

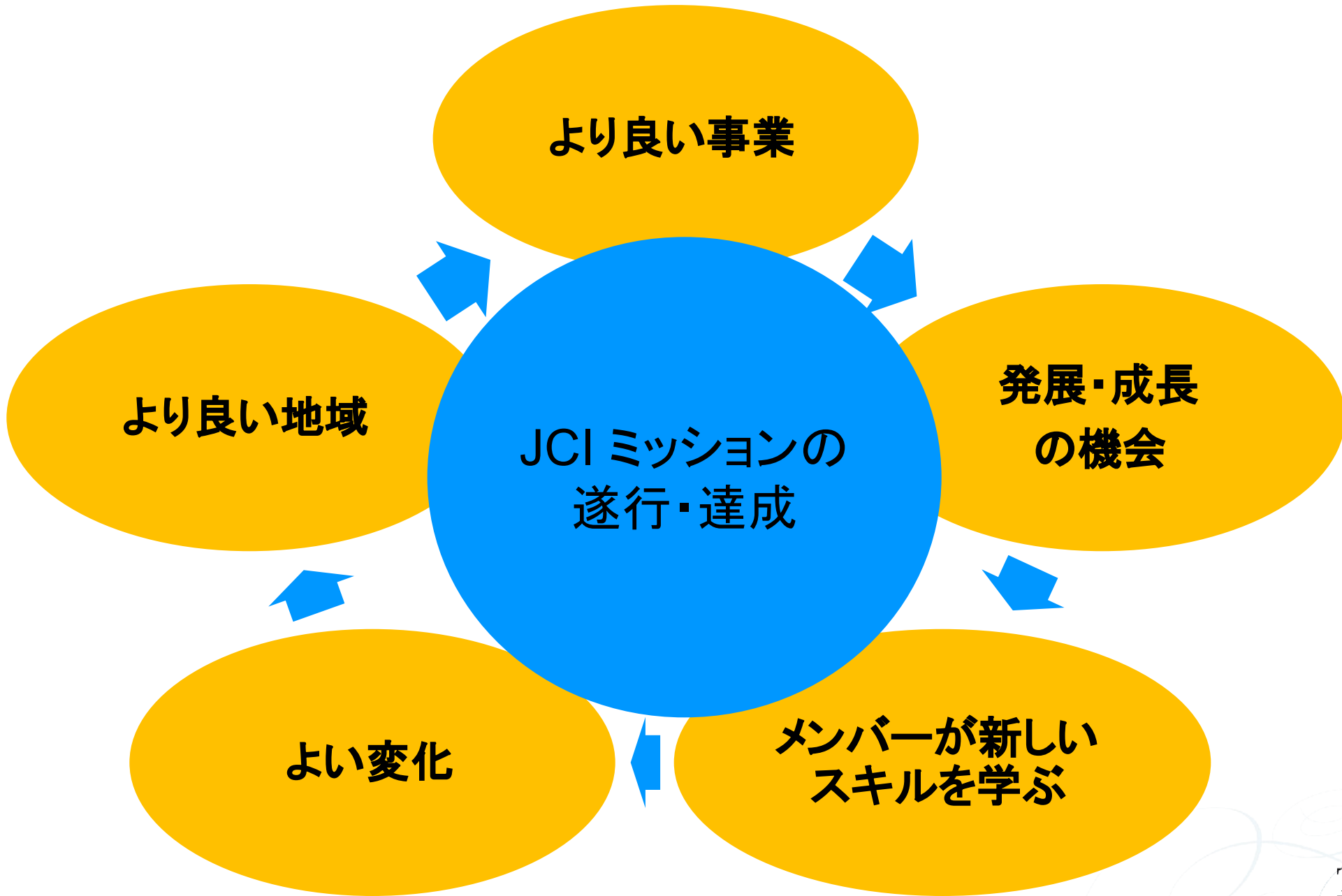
- メンバーに、**発展・成長の機会**を提供しなければならない
- LOMのアイデンティティと**関連性**がなければならない
- 組織にとって**良い評価**を得なければならない

会社は成功を測るとき：



JCIのLOMは成功を測るとき：





JCの事業のあるべき姿

企業・行政・各種団体と共に
多くの人々の考えと行動を変え
持続的に社会を変える仕組みを作り

JCをやりたい人がたくさん集まる

～事業構築セミナー～

第1章

あなたは何をしたい？

地域の社会課題**解決**
に本気で向き合おう

ダメなLOM

単なるイベント屋
腐った継続事業
公私混同の理事会・例会
対外・国際関係ゼロ
やる気のある人の足を引っ張る

JCの事業のあるべき姿

企業・行政・各種団体と共に
多くの人々の考えと行動を変え
持続的に社会を変える仕組みを作り

JCをやりたい人がたくさん集まる

第2章

このままの未来で
いいのか？

家計を追い詰める「負担増」と「インフレ」の二重苦

比較項目	2000年代初頭	現在（最新推計）	実質的な影響
額面年収	600万円	600万円	±0万円（横ばい）
社会保険料（年間）	約52万円	約91万円	+39万円の負担増
税金（所得・住民税）	約34万円	約45万円	+11万円の負担増
年間手取り額	約514万円	約464万円	▲50万円（約1割減）
実質購買力（物価高味）	基準（安定期）	物価高（累計+10%）	実質 約100万円分の目減り

➡ 「額面維持＝生活水準低下」が地域住民のリアルな生活実態

2040年：社会保障費187.3兆円の負担限界



➡ 現役1.5人で高齢者1人を支える「超・肩車型社会」が地方財政を圧迫

15年前倒しで進む少子化と744自治体の消滅危機

厚労省 人口動態統計

出生数67万人台の衝撃

- 国の予測より**15年早く**少子化の臨界点に突入
- 年間**90万人超**の自然減が日本全土で常態化
- 労働力・消費市場・地域納税基盤が急激に縮退

人口戦略会議 2024最新レポート

⚠ 全国の43%（744自治体）が消滅危機

- 2050年までに**若年女性（20～39歳）**が50%以上減少
- 東北・北海道エリアでは**63.4%の自治体**が該当
- 全国の空き家は**900万戸を突破**（治安・財政の悪化）

➡ 従来の「待てば回復する」という前提は完全に崩壊した

地域の生活基盤を直撃する3大クライシス



老朽インフラの更新破綻

建設後50年超の橋梁・水道が過半数を突破。修繕費と土木技術者不足により撤去・通行止めが急増。



地域交通のドミノ倒し

路線バスは10年で1.4万kmが廃止（4割が運転手不足）。高齢者の通院や子どもの通学の足が消滅。



行政＆医療・介護の崩壊

2045年に地方公務員が2割不足（充足率78%）へ。2035年には介護人材が約69万人不足。

➡ 「今まで通り行政に任せておけば安心」という時代は完全に終了

PART 2 : BENCHMARK & TRANSFORMATION

人口減少下でも躍進する「先進自治体モデル」

「人口が減るから衰退する」は思い込み。

前例踏襲を捨て、新たな価値を創造した地域は自走しています。

人口減少下でも成功する4つの自治体イノベーション



徳島県 神山町 IT誘致 & 高専創設

サテライトオフィス20社超を誘致。私立まるごと高専を開校し、若者と起業家が集まる先端モデルを確立。



岩手県 紫波町 オガール（公民連携）

補助金頼みを脱却し民設民営の駅前再開発を実現。図書館・ホテル・アリーナに年100万人超が集客。



岡山県 奈義町 奇跡の出生率 2.95

伴走型支援や医療費無償化、住民同士の育児助け合いが定着。日本屈指の合計特殊出生率を達成。



島根県 海士町 「ないものはない」

高校魅力化と島前型教育で全国から越境留学生が殺到。人口の2割以上がI・Uターン者の自立型離島。

➡ 共通点は「補助金依存の脱却」「官民共創」「人・教育への集中投資」

成功自治体の「新常識」 vs 衰退自治体の「旧体質」

衰退する自治体の旧体質

× 縮小パイの奪い合いと前例踏襲

- 総花型行政：全施設・道路を均等に残そうとして共倒れ
- 補助金・ハコモノ依存：維持費で将来財政が破綻
- 行政主導の限界：住民・企業が「当事者」にならない
- 定住人口至上主義：他地域との奪い合いに終始

躍進する自治体の新常識

✓ 選択と集中&官民共創の自走経営

- スマート縮退：中心拠点へ集約しデジタルで繋ぐ
- 稼ぐ公民連携（PPP）：民間資金と知恵を活用
- 人・教育への集中投資：子育て支援で好循環を生む
- 関係人口の共創：外部の多様な人材を巻き込む

➡ 「前例を守ること」が最もリスクの高い選択肢になっている

私たちはどちらの未来を選ぶのか？

“

縮小するパイを奪い合い、座して衰退を待つか。
前例を壊し、地域を存続させる変革を起こすか。

”

— 「何もしないこと」が最大のリスクとなる時代

➡ ここがまさに事業・政策における最重要の「背景」と「課題」になる

変革への針路：現状維持から戦略的適応へ

戦略の柱 1：行政・インフラの再構築

❖ スマート縮退と機能集約

- コンパクト+ネットワーク：中心拠点へ機能を集中させ、DXと地域交通で連携
- ハコモノから「未来世代」へ：維持困難なインフラを整理し、子育て・教育へ財源を大胆シフト
- 広域連携の推進：近隣自治体との行政事務・インフラ共同化によるコスト削減

戦略の柱 2：地域主体の自走エコシステム

🔄 官民共創による稼ぐ力

- 民間資金・知恵の活用：補助金頼みをやめ、PPP/PFIで収益を生む公共空間を創出
- 関係人口の共創：移住者だけでなく、副業・複業・都市部プロ人材を地域に巻き込む
- 青年経済人のリーダーシップ：行政任せを脱し、JCIや地元企業が変革の当事者に

➡ 「縮退を受け入れ、集中投資する」ことが唯一の地域存続ルート

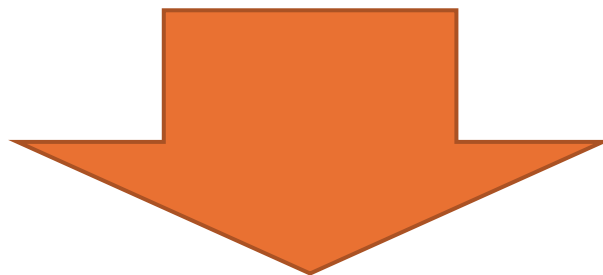
20～30年後
私たちは
不幸になる
可能性が高い

どちらを選びますか？

- 今の社会から脱出するか
- 社会を変えるか

本気で
社会を変えよう

多くの人々の
考え方と行動を変えて
社会を変える



運動

でもすぐに社会は
変わらない

未来はすぐには
変わらない

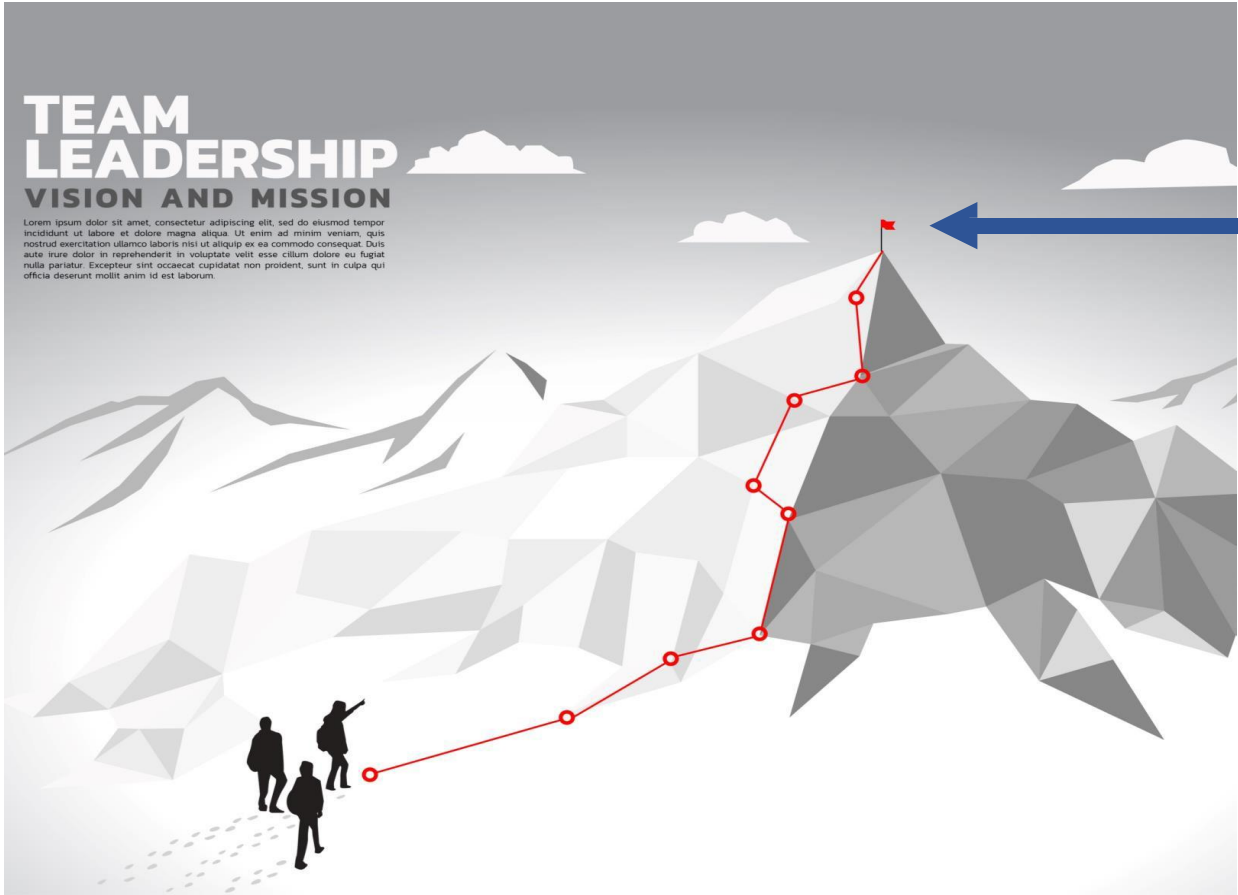
未来志向型
社会課題解決

第3章

事業はなぜ必要なのか？

目指す社会・組織の姿

(理事長所信の理解)



???

?

【問題】

我々の活動の **最上位の目的** はなんですか？

綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志
を同じうする者、相集い、力を合わせ青年
としての英知と勇気と情熱をもって **明るい
豊かな社会**を築き上げよう

綱領は、

明るい豊かな社会をつくることを

理念としている。

【問題】

明るい豊かな社会とはどんな社会でしょうか？

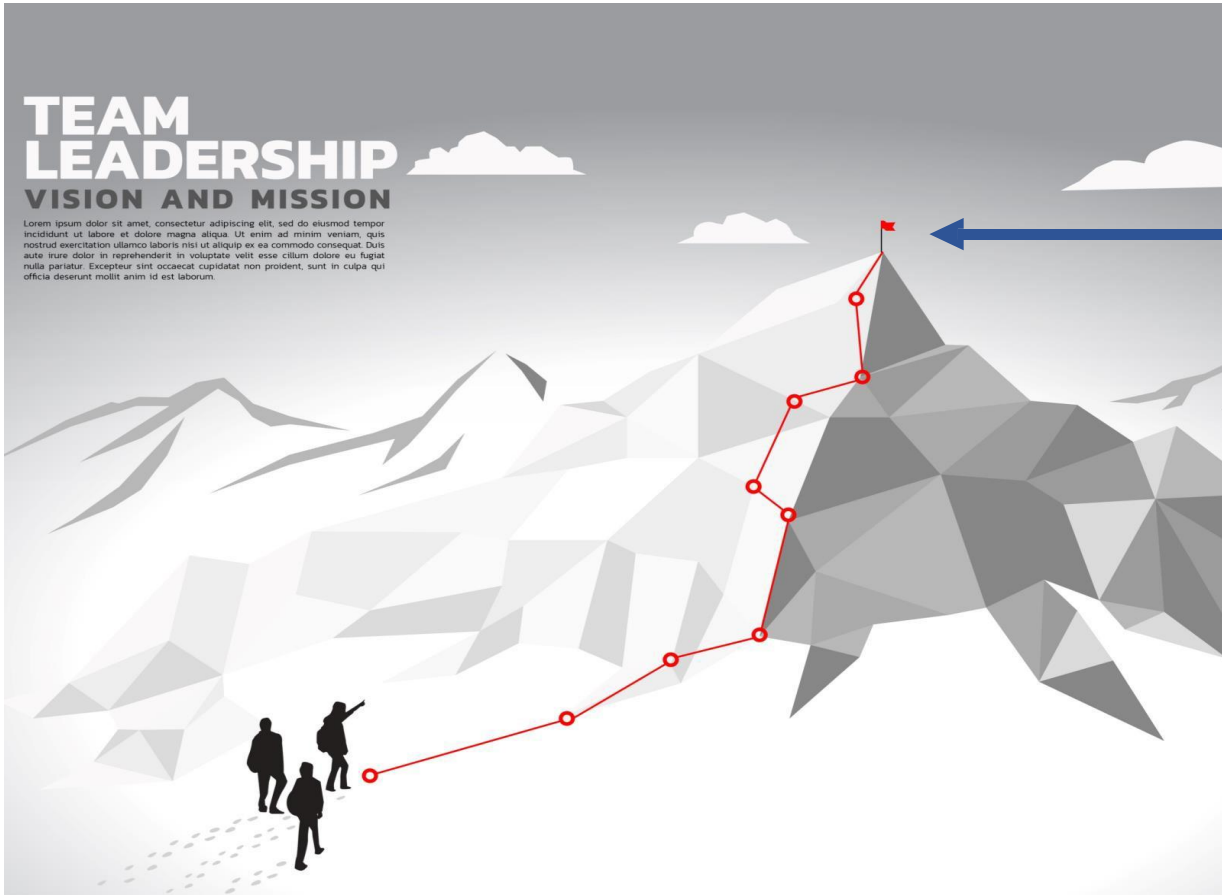
JC宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として **輝**
く個性が調和する未来 を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域 を創ることを誓う

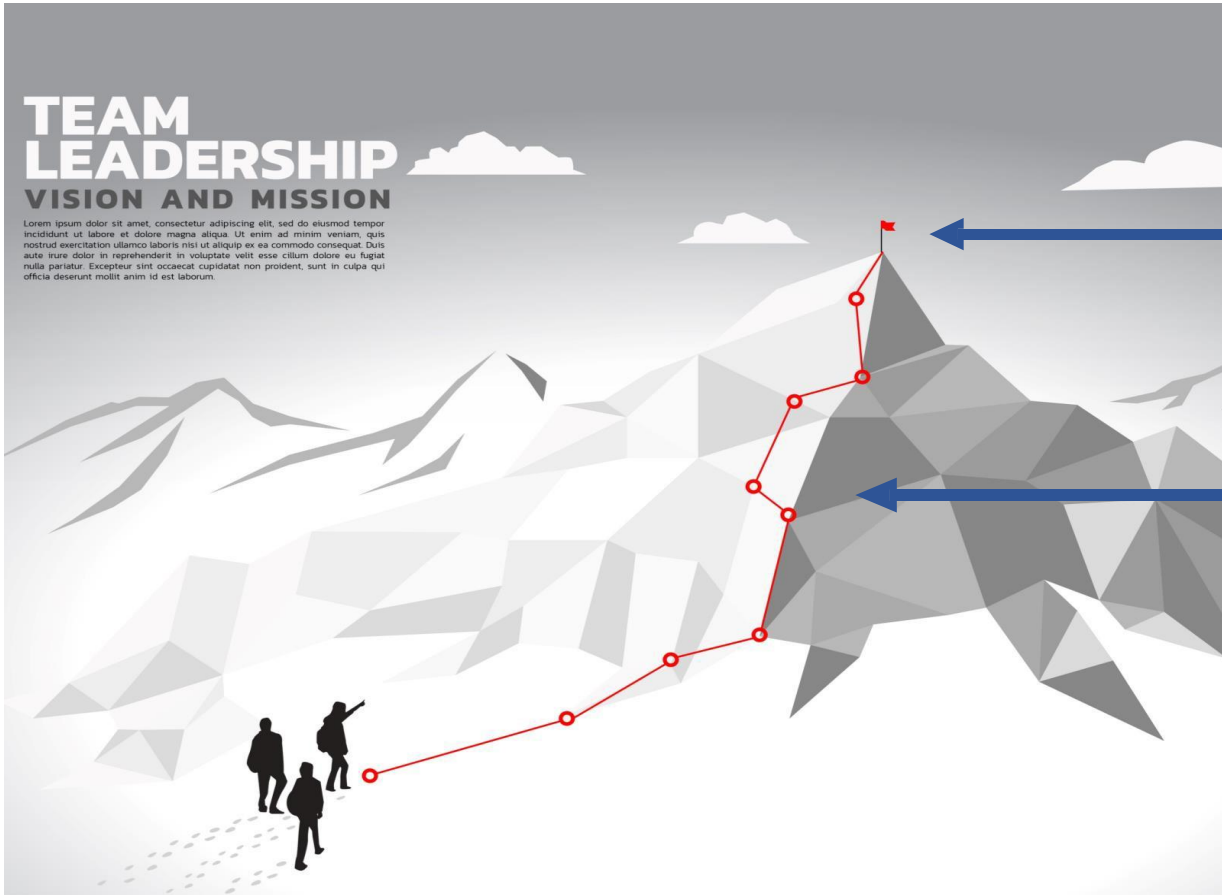
JC宣言は、
明るい豊かな社会が
何であるのかを示している。

つまり、「明るい豊かな社会」とは…

**社会課題を解決し
持続可能性な地域を創る**



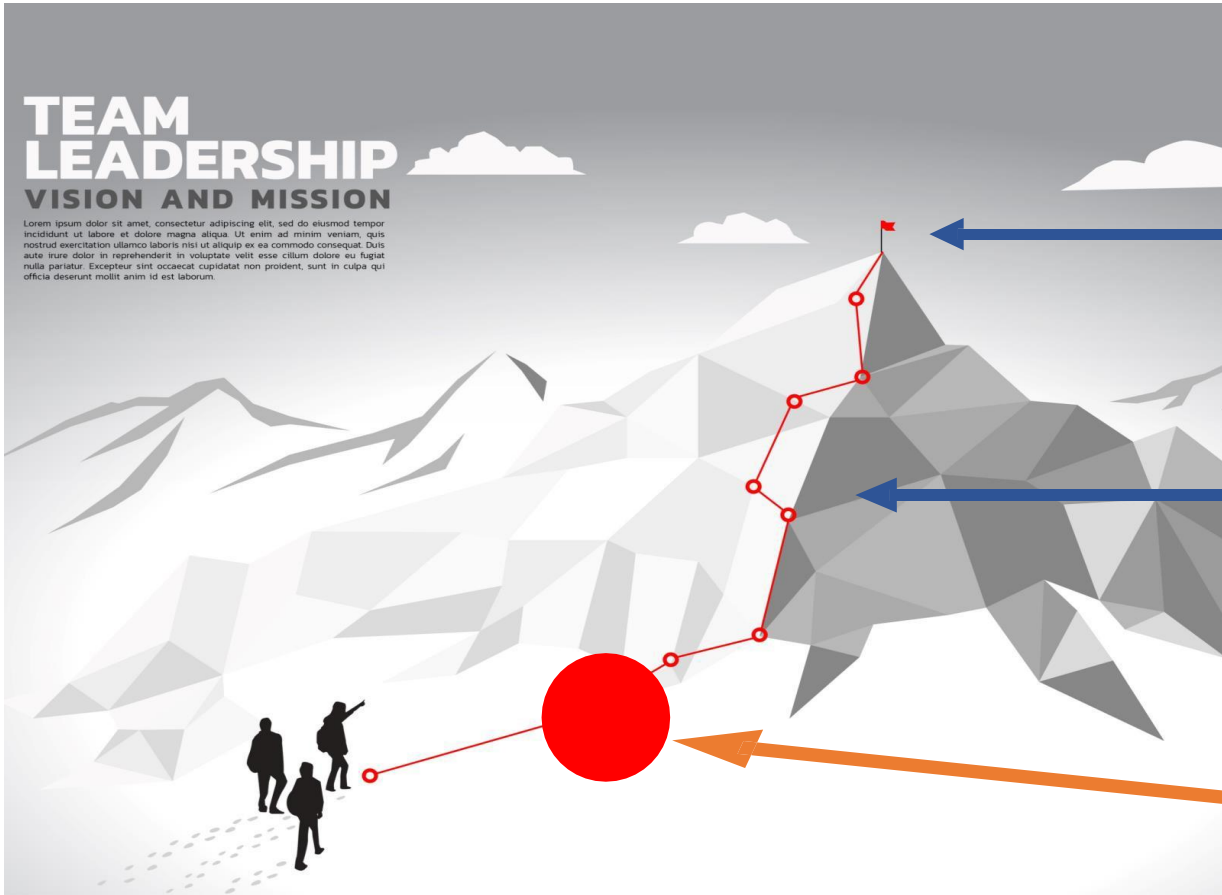
明るい豊かな社会
(多様性と持続可能性がある地域)



明るい豊かな社会

(多様性と持続可能性がある地域)

中期ビジョン (LOMの中期計画など)



明るい豊かな社会

(多様性と持続可能性がある地域)

中期ビジョン

(LOMの中期計画など)

理事長所信

第4章

運動をどう作るか？

青年会議所の事業は
何のために行うのか？



運動を起こすために
行う

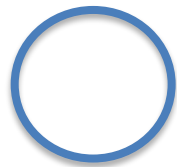
運動とは何？

特定の人や集団の
考えと行動を**変える**ために
集団で行動すること

Q. 良いJCの事業って
何ですか？

良い事業って何？

またやってくれと
~~言われる事業~~
~~参加者に喜ばれる事業~~



私もやりたい！と言ってもらえる事業



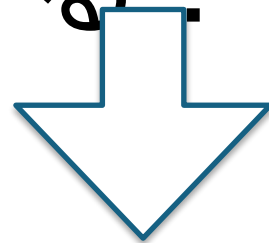
運動(ムーブメント)が起こる事業

JCI Mission 私たちの使命

**To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.**

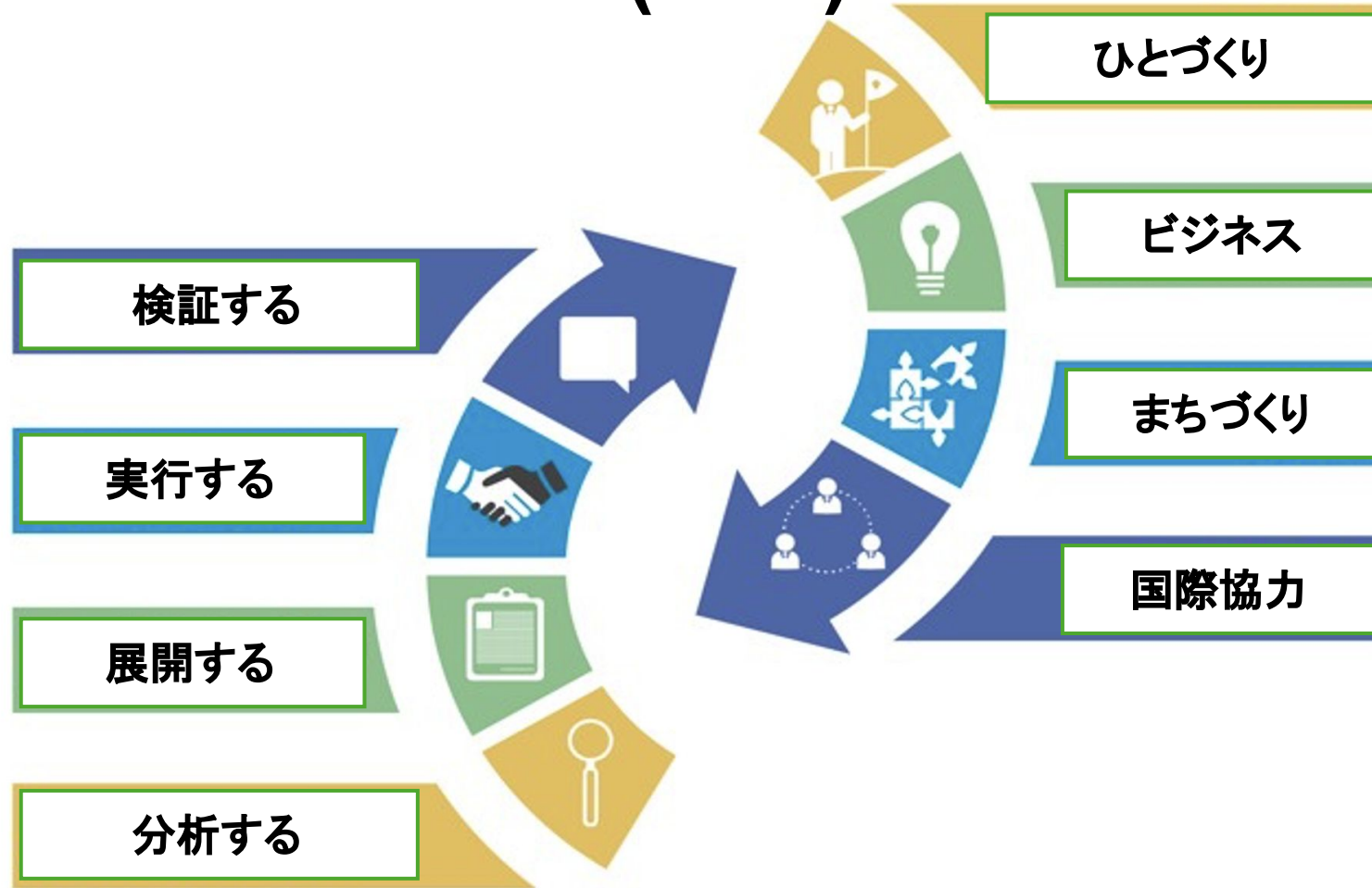
青年会議所は、
青年が社会により良い変化をもたらすために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

ではどうやって
運動につながる事業を作
る？



その「虎の巻」が
JCI Action Framework(JAF)

JCI Action Framework(JAF)



運動を起こす仕組み

分析

- 多くの人が感じる問題を発見する
- 問題の原因を分析する

展開

- 持続可能な解決策を構築する
- 解決策を事業としてデザインする

実行

- できることからやってみる
- PRしフォロワーを集める

検証

- 計画がうまく行っているか検証する
- 検証結果を引き継ぐ

パートナーと共に進む

日本の青年会議所の議案システム

議案システム



JCI Action Framework

①分析：地域社会のニーズを分析



1. 地域にはどんな人がいますか？
2. 地域にはどんな問題がありますか？
3. 誰が最も問題に直面していますか？
4. その問題の真の原因は何ですか？

➡ ここが議案上の「背景」になる

問題を見つけよう

- 比較

- ○○と比べて劣っている(過去、他者との比較など)

- 不当

- ○○はおかしい(差別、格差、不公正、違法など)

- 使命

- ○○すべき(SDGsなど)

- リスク

- ○○の危険性(防災、社会保障など)
- 誰が一番その問題に直面していますか？
 - その人がパートナーになる
- 理事長所信に書かれるべきこと

比較

比較すると劣っているもの

- 過去に比べて悪くなったと感じることは？
- 他の地域と比べて悪いと感じることは？
- 業界・住んでいる地域・ライフスタイル・快適さ・便利さなどで差を感じることは？
- 人口ビジョン、RESASの統計データを見てみよう
 - 過去と比較して上がっているのか？下がっているのか？
 - 未来はどうなるのか？
 - 他の地域と比較してどうか？

不当

これはおかしいというもの

- ・ 格差はないか？
- ・ 差別はないか？
- ・ 弱いもののいじめはないか？
- ・ 犯罪は起きていないか？
- ・ 不正はないか？
- ・ 負担が重すぎないか？
- ・ 偏っていないか？

使命

こうあるべきというもの

- ・ SDGsについて学ぼう
 - ・ 17の目標だけでなく、ターゲットを見よう
- ・ こうあるべきというものはないか？
 - ・ 道徳・精神性
 - ・ 宗教
 - ・ 民主主義
 - ・ 投票率
 - ・ 自由主義
 - ・ 言論・行動・経済活動・生活
 - ・ 社会主義
 - ・ より平等で公正な社会

リスク

危険があるもの

- ・ 災害の危険性はないか？
- ・ 気候変動によってどうなる？
- ・ 生命を脅かしているものはないか？
 - ・ 交通安全、公害、不適切な食べ物、喫煙、習慣など
- ・ 争いの火種はないか？
 - ・ 土地・利権・暴利など
 - ・ 宗教問題、民族問題など
 - ・ 外交・防衛など

JCIパラグアイ

問題：
救急車が足りない...

特定された問題

事故発生時の非効率的な
救急サービス

分析をしなければ、プロジェクトの焦点が以下の
ような点にあてられる可能性がある

- より多くの人材を確保するための社会運動
- より多くの救急車を購入するための財源の確保

(問題の原因による)影響を解決する努力を し
ても、原因がまだ存在するため、
問題を取り除いたことにはならない。

特定された問題

事故発生時の非効率的な緊急サービス

なぜ?

交通事故に対応する人員と設備の不足

なぜ?

歩行者を巻き込む事故の増加

なぜ?

歩行者が安全地帯で道路を横断しない

なぜ?

知識や適切な標識の不足

プロジェクト

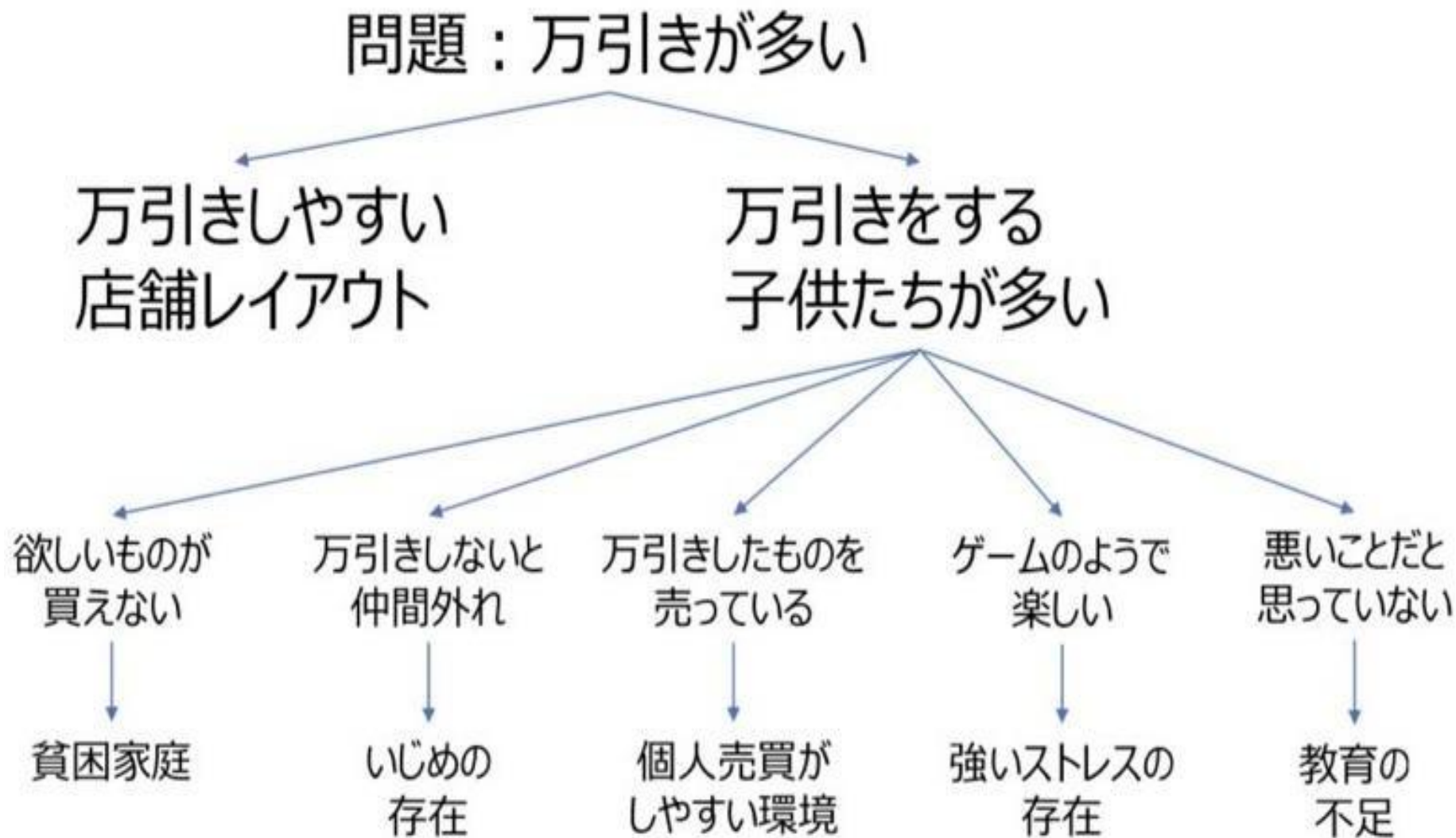
歩行者と運転者を教育するための新しい標識やキャンペーン

原因の排除を
目的とした
プロジェクト...

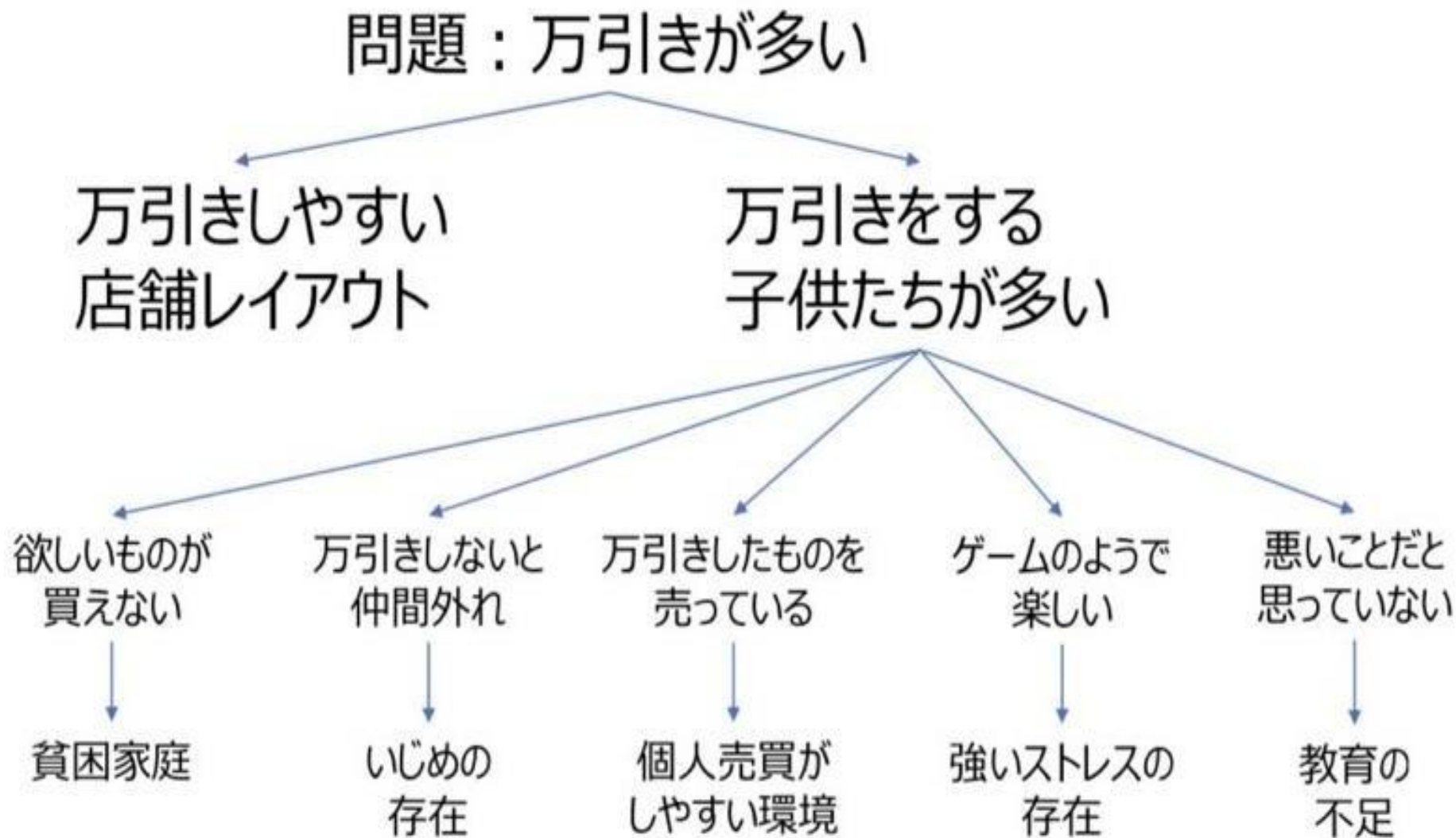
事故発生時の
非効率的な
救急サービス

歩行者と運転者を
教育するための
新しい標識設置や
キャンペーン

特定された問
題
にほとんど
関係ない







Workshopでやってほしいこと。 あなたが解決したい「問題」は何？

- 質問1:

- 比較

- ○○と比べて劣っている(過去、他者との比較など)

- 不当

- ○○はおかしい(差別、格差、不公正、違法など)

- 使命

- ○○すべき(SDGsなど)

- リスク

- ○○の危険性(防災、社会保障など)

- 質問2:

- 誰が一番その問題に直面していますか？

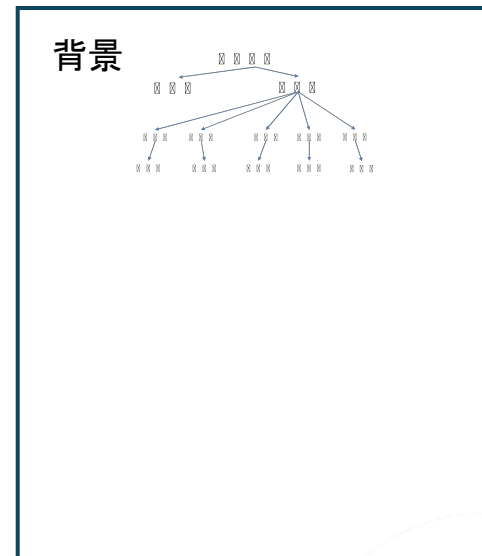
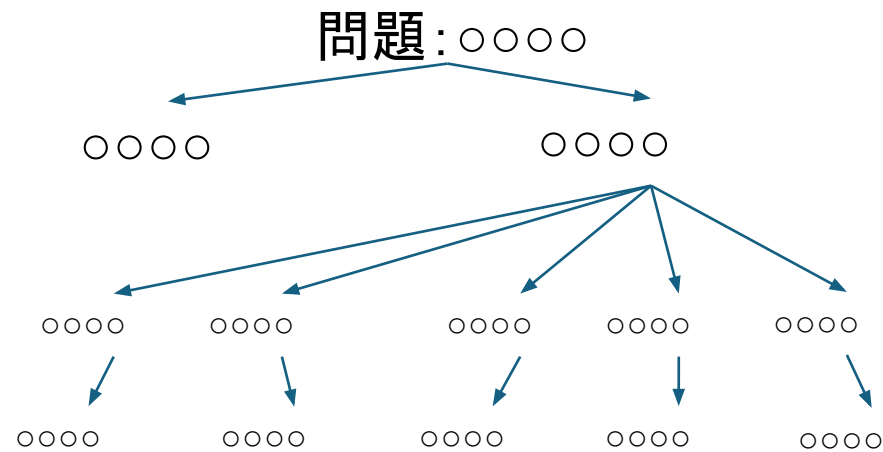
グループパワー

ク

休憩00:00

ワークショップ①

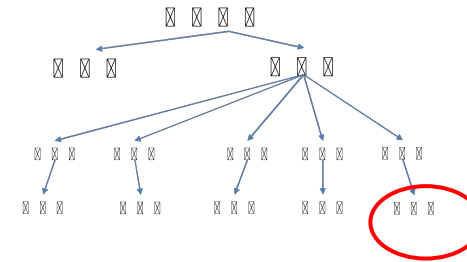
- あなたの地域の問題を発見して、発見してください



表面 仕上がりイメージ

課題: ○○○ ○○○

原因



背景

A:○○○○○(今ある問題)を
B:○○○○○(あるべき状態)にする必要があります。

目的

△△する ○○を【増える、減らす、なくす、つくる】

パートナー

○○○○○

背景の書き方

- 1、問題の原因がわかること
- 2、あるべき状態がわかること

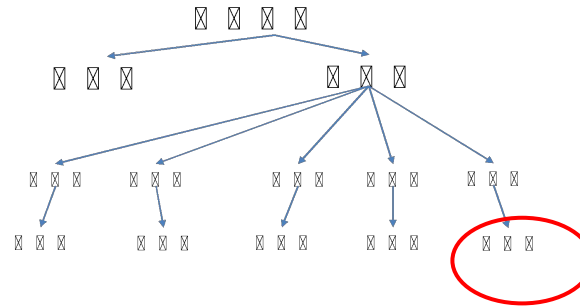
【書き方のポイント】

A: ○○○○○○○(今ある問題)を

B: ○○○○○○○(あるべき状態)にする必要があります。

ワークショップ2: 背景を書く

課題: ○○○ ○○○



背景

A: ○○○○○○(今ある問題)を
B: ○○○○○○(あるべき状態)にする必要があります。

目的

△△する ○○を【増える、減らす、なくす、つくる】

パートナー

②展開：持続可能な解決策の開発



「原因」を取り除くには

1. 誰がどう変わればよいですか？
2. どんな条件が必要ですか？
3. 誰が利益を得ますか？

➡ ここが議案上の「目的」になる

よい目的とは

1. 誰が(何が)どう変わるのか 明確である
2. やる前とやった後で比較できる
3. 目的が大きすぎない

目的を決めることは、
戦略を立てることと同じ

目的の文章の基本構成

目的の文章はこの2パターンでOK

- ・「○○を △△に 変える」こと
- ・「△△する ○○を【増える、減らす、なくす、つくる】」

できるだけ誰でもわかるように
シンプルにする

5つのパターン

変える：現状のルールや慣習などを変えるというもの

例：自動運転が行動を走れるようにルールを変える

増える：今すでに一定数いるがさらに増やすというもの

例：SDGsを認知する人を増やす

減らす：今一定数あるものを減らす。というもの

例：煽り運転をする若者を減らす

なくす：今あるものをゼロにするというもの。本質的になくなる可能性があるものでなければならない。

例：ハンコをなくす

つくる：今ないものを加えるというもの

例：(外国人観光客が来ない地域に)外国人観光客が来る地域の魅力をつくる

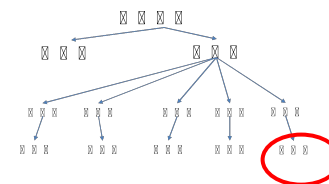
「〇〇を醸成する」は目的にはなりません！

ワークショップ：目的を書く

目的の文章をこの形にする
「△△する ○○を【増える、減らす、なくす、つくる】」
「○○を △△に 変える」

例：交通ルールを理解する市民を増やす。

課題：○○○



背景

- 1、問題：飲食店の経営が悪化している
- 2、原因：市民の飲食店の感染症対策についての知識が不足している
- 3、あるべき状態：市民が飲食店の感染症対策を理解し、感染症に注意しながら利用する

目的

飲食店の感染症対策を理解する市民を増やす

パートナーシップ



1. メンバーを巻き込みましたか？
2. 分析の段階から外部パートナーを見つけましたか？
3. パートナーと協働できましたか？
4. パートナーから評価を受けましたか？

➡ 運動を作る最大のポイント

絶対に通る議案



2019年度褒賞グランプリ 「行政を動かした徳島スポーツSDGs～すげえ・でっかい・ごっつい スポーツコミッション」徳島JC



「成人したらジムに行くぐらいしか
体を動かす機会がない」という固
定観念



障害者・高齢者でもできるスポーツ
ばかりを集めたイベントをマイナー
スポーツ団体をパートナーとして実
施

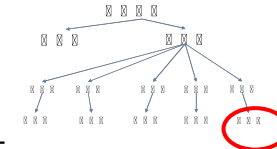
2019年度褒賞グランプリの ポイント

社会の問題	➡	生活習慣病が多い
問題の原因	➡	運動する人が少ない
有効な解決策	➡	多様なスポーツに 触れる機会
具体的な行動	➡	スポーツ展示会の 社会実験
パートナー	➡	マイナースポーツ団体
結果	➡	次年度から 県が引き継いで実施

ワークショップ

その目的が達成されたときに
メリットを得る人や団体を書
いてください

課題: ○○○



背景

- 1、問題: 飲食店の経営が悪化している
- 2、原因: 市民の飲食店の感染症対策についての知識が不足している
- 3、あるべき状態: 市民が飲食店の感染症対策を理解し、感染症に注意しながら利用する

目的 飲食店の感染症対策を理解する
市民を増やす

パートナー

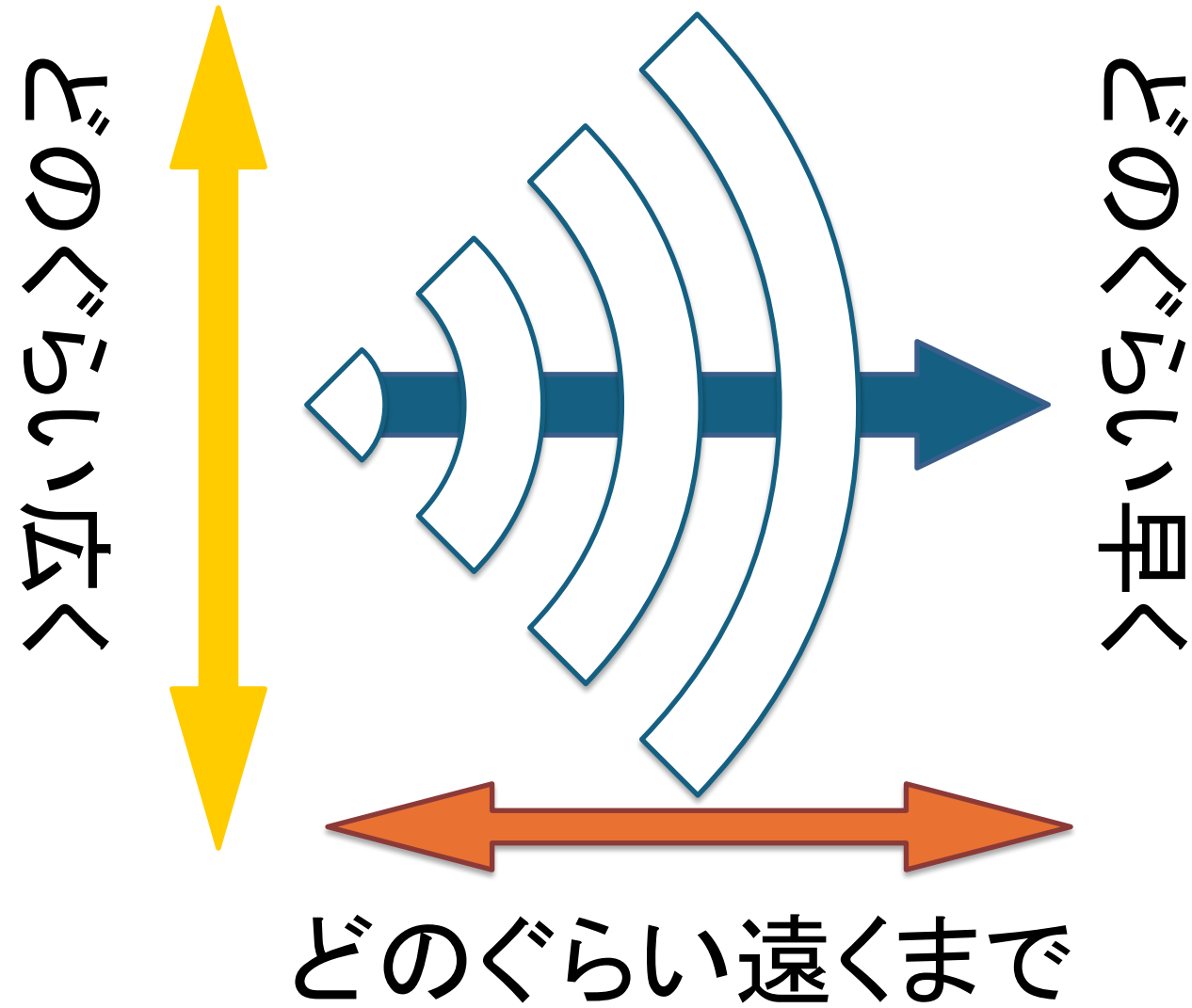
一般社団法人日本フードサービス協会

②展開：持続可能な解決策の開発



- 目的を達成するために
1. 何ができますか？
 2. どう広げますか？
 3. 結果は評価できますか？
 4. 予算は合理的ですか？
 5. 持続的な変化になりますか？

事業の評価軸

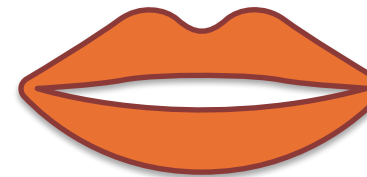
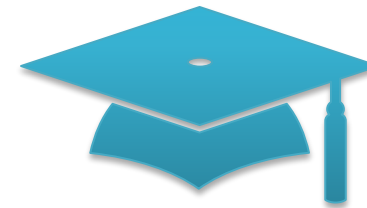
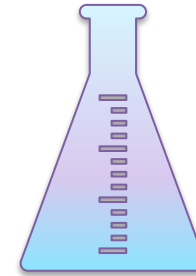


事業の種類

社会実験

人材育成

キャンペーン



人材育成



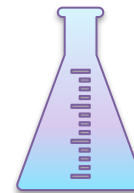
特定少数の対象者の
知識や訓練や環境により
つながりや資源配分を変える

- 条件
- ・ 特定少数
 - ・ 人材ビジョンがある

人材育成の例



- アカデミー事業
- 合宿事業
- チャレンジユニバーシティ
- 国際交流事業
- 例会事業
- 災害対応



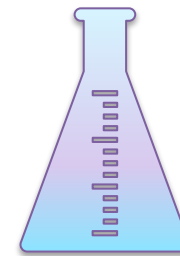
社会実 験

特定多数の
「やったことがない」を
やってみせることで
規則や資源配分を変えてもらう

条件

- 仮説がある
- 結果が検証できる
- 再現性がある

社会実験の例



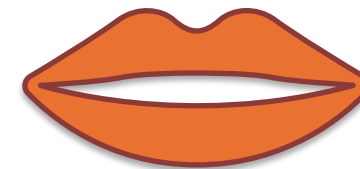
- 十分普及していない地域の魅力に価値があるか試してみる
- 新しい教育プログラムを試してみる
- 新技術を地域で適用してみる
- 新しいイベントを始めてみる

キャンペーン

社会一般に
趣旨を伝え、賛同を得て
規則や資源配分やつながりを変える

- 条件
- 不特定多数
 - キーワードがある
 - 行動に移せる

キャンペーンの例



- 普及・啓発事業
- 防災
- 募金事業
- 会員拡大
- 新年会・式典

マイナーな手法

- 提言
 - 行政など力のある所に推奨する
- 会議
 - 関係者を集めて合意を作る
- 交流会
 - つながりを作る

ワークショップ

どの手法が最も問題解決に適しているかを 決めよう

人材育成

- (名称をあげて)〇〇の人々が、〇〇になることにより、〇〇の固定観念を変えてもらう人材育成事業

社会実験

- 〇〇な人々に対し、〇〇をやってみせることで、〇〇の固定観念を変えてもらう社会実験事業

キャンペーン

- 〇〇を伝え、賛同を得ることで、〇〇の固定観念を変えてもらうキャンペーン事業

実施事業: 飲食街を歩く人に対し、飲食店の感染症対策の「見える化」をやってみせることで、「飲食＝危険」という固定観念を変えてもらう社会実験

ファシリテーターへ

- 時間管理: 10分間
 - 3分間で発案者に質問タイム & 考える
 - 3分間でシェア
 - 3分間で決める
- 複数併用でもよい
- どのぐらい広く、どのぐらい早く、どのぐらい遠くへ伝わるかを問う
- 人材育成に流れたら
 - どれぐらいの広がりがある？効果は測定できる？という質問をする
- 提言に流れたら
 - 提言先が動く可能性はある？という質問をする

4W1Hに注意して事業概要を書いてみよう

Who: 対象者 :

When: 実施日時:

Where: 実施場所:

What&How: 実施方法:

時間があればこれも

評価の方法:

事業の展望:

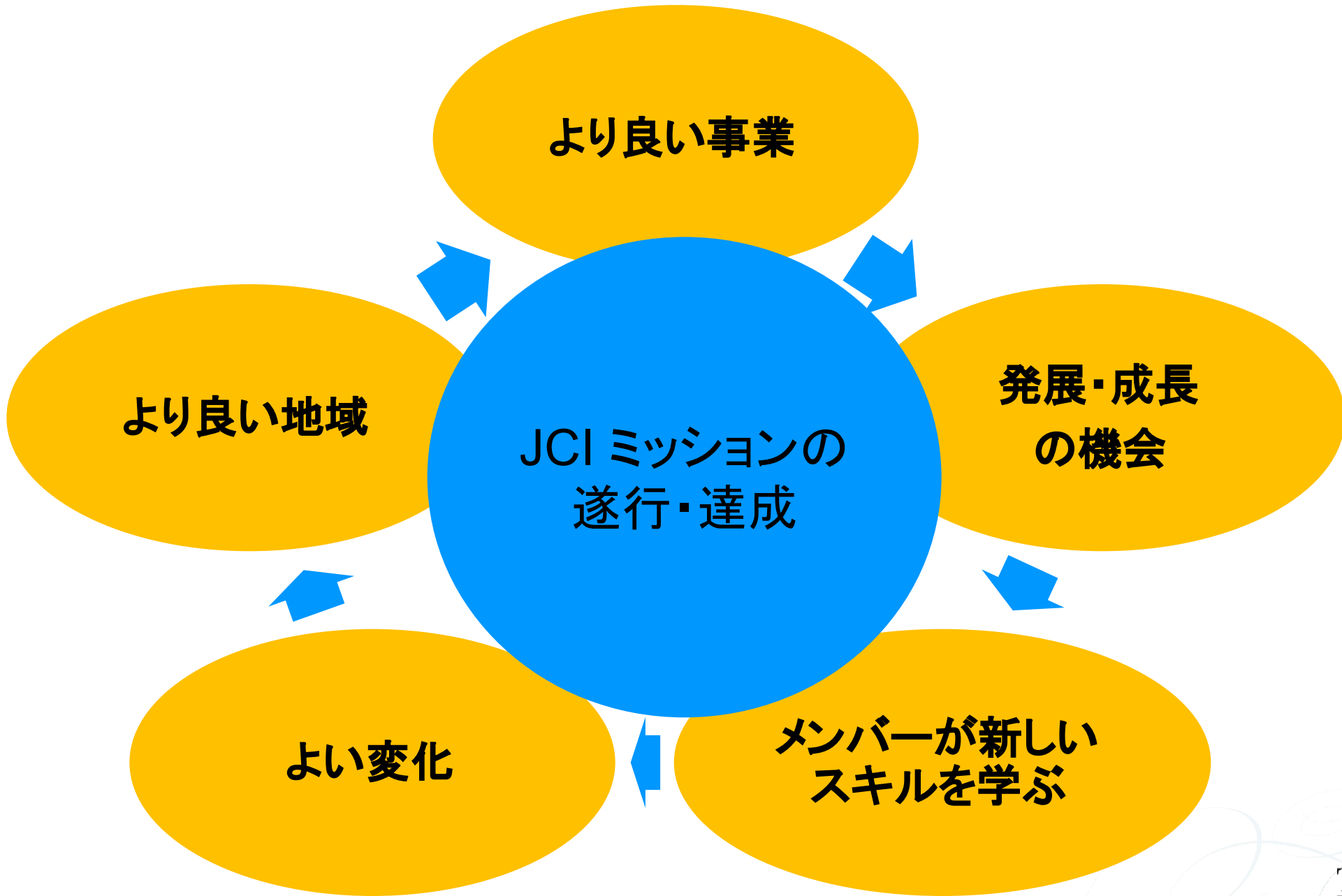
実施事業: 交通ルールを教える事業

対象者: 交通ルールを知らない市民

実施日時: 2025年7月～10月末

実施場所: 高松市内の飲食街

方法: 交通量の多い時間帯に、交通安全教室を実施する。



(公社)日本青年会議所
2026年 監事 菅野譲